

創立50周年記念特集号

信友

信友会事務局

 東京都新宿区本塩町 8-2
 住友生命四谷ビル
 電話 080-4816-3202

信友会発足五十周年を迎えて

会長 菊池 伯



信友会々員の皆様、そして全国の現役の通信科幹部の皆様におかれましては、御元気で御活躍のことと拝察申し上げます。

政権の安定化とともに、経済に活性化の兆しが見え、安全保障体制の充実にも目を向けられつつありますが、一方で東日本大震災以上の被害が予想される大震災発生の際、近隣各国との間の諸問題、エネルギー問題、異常気象等、不安を募らせる要因も日に日に顕在化しており、落ち着かない毎日でもあります。しかしながら、いずれも国の安定、国民生活の安心・安全にとっては、避けて通ることのできない課題であり、いい機会が巡ってきたといえるのかもしれません。そうした環境を踏まえ、警戒監視、島嶼防衛、弾道ミサイル・ゲリコマ対処、サイバー攻撃対処、震災対処等の態勢整備と相俟って陸上自衛隊通信も更に発展・飛躍の時を迎えているように思われます。

会員相互の親睦を図ることを主たる目的として昭和三十三年に発足した信友会は、今年、晴れて五十周年を迎えることになりました。社会全般に見られる種々の団体の離合集散の様を思う時、五十年にわたり、衰えるどころか逐年充実を図りつつ活動を継続し、今日の日を迎え得たということに対して感慨を深くしております。信友会は、決して一人の人間によって運営されてきたものではありません。会員皆様の変わることのない御理解や御協力がその基盤・前提であることはもちろんですが、信友会の今日の姿・形は、発足当時、そしてこの五十年間、その折々に会の運営を担われた先輩のその折々の苦労の連なる結果であります。ここに、それぞれたの時代に汗水を流し、知恵を絞っていたいた先輩各位に心から敬意と感謝を捧げるものであります。

私は、行徳会長の後を受け、昨年四月から

第十四代信友会長として勤めさせていただいております。折しも五十周年の時期を担任することになり、私の主任務は、五十周年の結節に係わる事業を整備と実行することともに、五十周年を契機として新たな一歩を踏み出す動機付けをすることであるとう認識しております。五十周年記念事業は、最大の結節である二月二十三日の行事を中心に着々と準備を進めております。また新たな一歩としてきた信友会の姿を大事にしながらも、経年の問題点の改善や社会環境の変化に適合して信友会をさらに充実・発展させる方策について検討してまいりたいと考えております。私はじめ現執行部への会員皆様の御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

二月二十三日には、総会、記念式典、感謝状贈呈、記念講演そして祝賀懇談会を実施します。特に、懇談会においては、同期や親しい仲間との再会を楽しんでいたくことのほか、信友会ならではの大きな意義として、陸上自衛隊通信の発展の歴史的区分により、「あの頃のあの事業に閣下と関与した者の思い出話の輪」が、あちこちでできるということがあられると思います。思い出を共有する仲間が集まると本場に話の尽きないものです。信友会の会員は、陸上自衛隊通信の発展に閣下と関与してきた生きた証人であり、現役の者にとっては、そうした「思い出話の輪」は、陸上自衛隊通信の歴史を生で知る絶好の機会でもあります。実行委員会としては、「思い出話の輪」が更に充実するよう工夫してまいりたいと存じます。ぜひ沢山の会員そして現役の皆様に参加していただきたいと思ひます。

五十周年記念事業

東北地区懇親会実施

信友会の地区懇親会は、毎年、方面通信群の記念行事祝賀会食等の場をお借りして行っています。平成二十五年は、東北方面通信群創立五十三周年記念行事に併せて四月七日(日)に仙台市内のホテル「メルパルク仙台」において行いました。

地区懇親会は、前年から信友会創立五十周年記念事業の一環として実施しており、今回は通信群祝賀会食の前に、信友会行事として若干の時間を預いて懇談会を催しました。この懇談会には、通信群長・副群長臨席の下、東北地区の会員の皆様、東京方面から参加した会員の皆様及び信友会会長以下の信友会役員が参加(総数四十五名)して、最近の信友会の活動状況や信友会創立五十周年事業等について説明や意見交換をした他、記念品贈呈や写真撮影を行いました。また、通信群記念祝賀会食においても、和気あいあいとしたムードの中、会員相互の旧交を温め、昔話に花を咲かせました。

本年の地区懇親会は、中部方面通信群記念行事に併せて行います。多数の会員の皆様のご来場をお待ちしております。



座談会

 信友会座談会開催
 平成二十五年十一月五日(火)、市ヶ谷にて開催
 (事務局日より(三)項に掲載)


東北地区懇親会

五十周年記念行事の案内

信友会創立五十周年記念行事を左記のとおり実施します。今年は五十周年の節目の年であり、例年開催している総会及び合同款送迎会を拡大し、記念行事として実施します。会員皆様の多数のご参加を心からお待ち申し上げます。

記

信友会創立50周年記念行事

- 一 日時 平成二十六年二月二十三日(日)
- (一) 総会 十時三十分～十時五十分
- (二) 記念式典(感謝状贈呈含む) 十一時～十一時二十分
- (三) 記念講演会 十一時三十分～十二時二十分
講師 梯久美子氏
(左の講師紹介欄をご覧ください)
- (四) 合同款送迎会兼祝賀懇談会 十二時四十分～十四時四十分
二 場所 第一ホテル東京(前年に同じ)
新橋駅から徒歩五分
(JR・銀座線・浅草線)
電話 〇三・三三〇・一四四・一
住所 東京都港区新橋一・二六
三 会費 九千円(当日受付にて頂きます)
【お願い】
出欠については同封のはがきでご返信ください。

記念講演講師紹介

 講師 梯久美子(かははしくみこ)氏
 演題 「硫黄島・栗林中将と私」
 講師略歴

 「百年の手紙」(岩波新書より抜粋)
 一九六一年熊本市生まれ。
 ノンフィクション作家。
 北海道大学文学部卒業後、
 編集者を経て文筆業に。
 二〇〇六年、『散るを悲しむ 硫黄島総指揮官・栗林忠道』(新潮文庫)で、第三七回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。同作は世界八カ国で翻訳出版されている。

「その他の著書に戦争体験を取材した著書を多数刊行。最近作に自衛隊通信部隊で勤務された父の思い出を綴った『猫を抱いた父』がある。」

TOSHIBA
Leading Innovation >>>

王子さま。
私たちはエコな暮らしと
エコな社会をつくっていきます。

商品で、技術で、モノづくりで。
エコな暮らしのスタイルと、エコな社会のスタイルを
創造していく。それが東芝のecoスタイルです。

ecoスタイル

この星のエネルギーとエコロジーのために。東芝

<http://www.toshiba.co.jp/env/prince/>

© 2014 Toshiba. All Rights Reserved. Toshiba is a registered trademark of Toshiba Corporation. Prince is a registered trademark of Shogakukan. All other trademarks are the property of their respective owners.

OKI Open up your dreams

Open up your dreams

OKIは夢の扉を開きます

OKIは世界の人々の心で安心、安全な夢の社会への扉を開きます。
すべての夢や希望が現実のものとなる情報社会の実現に貢献していくこと。
それによって人々に「安心」をお届けするという使命を果たしていきます。
「あなたの夢を拓く」「思いを実現する」、
それが「Open up your dreams」に込めたOKIの約束です。

OKI www.oki.com/jp/

JRC

もっと知りたい、伝えたい。

遠くのことをもっと知りたい。離れた場所の誰かに伝えたい。
無線通信でつながる安心・安全に取り組んでいます。

JRC 日本無線株式会社
<http://www.jrc.co.jp>

本社事務所 特機営業部 Tel. 03-6832-1818
〒167-8540 東京都杉並区荻窪 4-30-16 藤澤ビル

Empowered by Innovation **NEC**

見つめているのは、
人びとの暮らしです。

人びとが安全・安心で豊かに暮らせる社会のために、
私たちは先進的なICTで貢献します。

人と地球にやさしい情報社会へ <http://jpn.nec.com/>

HITACHI
Inspire the Next

グローバルな視野で、社会の安全・安心の実現を。

ディフェンスシステムが提供する
システムのフィールド

- 地理空間情報ソリューション
- ICT基盤ソリューション
- 指揮統制システム
- NCW関連システム
- 艦艇搭載システム
- 統合電気推進システム
- メカトロニクス
- 危機管理ソリューション

Outerspace Allspace On the Ground Surface Ocean Underwater

さまざまな脅威が形を変えて現出し、社会を取り巻いている現在。日立の総合技術をいかしてより効果的なシステムの開発・提供に努めています。ベスト・ソリューション・パートナーとして、身のまわりの安心から日本の、そして世界の安全まで、その確保に貢献したいと考えています。

日立のディフェンス & セキュリティ

株式会社 日立製作所
ディフェンスシステム部 〒101-8808 東京都千代田区外神田一丁目18番13号(秋葉原ダイビル)
Tel.03-3258-1111 (大代表) Fax.03-4564-4965

お客様に信頼され、次の時代に価値を創造する
社会イノベーターをめざして

映像・無線
ネットワーク
ソリューション

エコ・薄膜
プロセス
ソリューション

日立国際電気グループは、映像と無線の技術、それらを融合したシステムの高度化により、安心・安全と環境保全、地球温暖化対策などの社会的課題の解決に向けた“ものづくり”に取り組んでいます。また、最先端デバイスを支えてきた半導体サマールプロセス技術を活用して、LEDやパワーデバイス、太陽電池などの省エネ分野でも貢献していきます。

株式会社 日立国際電気
〒101-8980 東京都千代田区外神田 4-14-1 (秋葉原 UDX ビル 11F)
TEL.03-6734-9480 <http://www.hitachi-kokusai.co.jp/>

MITSUBISHI
三菱電機
Changes for the Better

変える。
三菱電機

日本のあらゆる場所から、
リアルタイムに状況を伝える。
世界初*の「ヘリサットシステム」が、
災害時のより的確な対応を可能にする。

*2013年3月28日、当社発表。

家庭から宇宙まで、エコチェンジ。 **eco Changes**

三菱電機は「グローバル環境先進企業」へ

ヘリコプター直接衛星通信(ヘリサット)システム

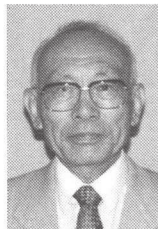
三菱電機株式会社 この広告についてのお問い合わせは、adv.webmaster@mf.mitsubishiElectric.co.jpまたはFAX.03-3218-2321(営業担当)まで。

FUJITSU

shaping tomorrow with you

信友会も半分以上に

第四代信友会長 牛山 正吾



信友会五十周年、誠にお目出度うございます。私も信友会員となって三十年がたち、長いお付き合いで皆様にはお世話になっております。私の信友会入会の少し前の頃からの思い出を書きたいと思います。

昭和五十四年、私が陸幕通信電子課長に着任した時の陸上幕僚長は、通信科職種の先輩、永野茂門(陸士五十五期)さんでした。永野さんは、雑談も冗談もお上手で話し相手を楽しませ、また麻雀もお好きでした。新聞報道の予想では、永野さんの後任の陸幕長は、私が久留米の幹部候補生の頃の区隊長で、当時の東方総監の飯山茂(陸士五十七期)さんとのことでした。新聞等でその情報を知った飯山区隊長の教え子には皆喜んでいて、飯山さん宛への祝電が二百通も届いたそうです。

しかし飯山さんが陸幕二部長(当時)時代の部下が宮永スパイ事件で逮捕された影響からか、昭和五十五年、陸幕長には元通信職種の鈴木敏通(陸士五十七期)さんが着任されました。陸幕長となられた鈴木さんは、東部方面通信群の編成に尽力されました。

なお、永野さんは退官後、全国比例区の参議院議員に当選され、その後羽田内閣の法務大臣に就任されました。ところが某新聞に中国の南京事件に関する発言を掲載され、わずか十一日間で大変な辞任されたのは残念でした。さて私の勤務地は関東以外では、北海道の旭川・上富良野・真駒内と東北の仙台でした。北海道の勤務では、信友会の皆様といっしょにゴルフをプレーしたりして懇親を深め、楽しい思い出ができました。

海外の思い出としては、昭和六十年三月、米国ニュージャージー州マレーヒルにあるAT&T社の「ベル研究所」で、世界初の電話機や通信放送衛星テルスター一号機などを見学できたのは、楽しい思い出となりました。昭和六十年四月の米国出張の折、ニューヨークのホテルでは、信友会員の月野木久(陸士六十期)さんと何とか時間を調整して会えたのは幸いでした。そのときはホテルが満員の状況でしたが、早めに予約していたので四室ある一戸建てのような豪華な部屋に宿泊できました。しかし、昭和六十二年四月末、私と家内が南米を二週間旅行したとき、ブラジルのサンパウロに着いてから、同市から車で二時間ほどの郊外に自宅がある月野木さんと連絡しようとした電話でしたが、何らかの原因で通じず、お会いできなかったのは残念でした。

小生もゴルフを数年前からやめ、マイカーも昨年夏から終わりで淋しいのですが、信友会員の皆様との親睦は続きますのでこれからもよろしく願っています。

人民解放軍

第五代信友会長 中里 義弘



信友会創立五十周年おめでとうございます。

信友会は陸上自衛隊通信の発展を願って、通信職種OB会として発足し、多くの先輩や会員諸兄のご尽力

により今日を迎えることができました。この間、陸自通信をめぐる環境が大きく変化し、それに応じて通信器材やシステムは世代交代を繰り返して発展してまいりました。コンピュータ・ネットワーク時代となり、便利さが増した反面、色々な問題も出てまいりました。

私は、「中華人民共和国二〇一三を含めて軍事及び安全保障情勢」という議会報告書を入手しました。そこには、改革を続ける解放軍の*年度の最新情報、*中国の戦略を理解すること、*軍近代化のゴールと傾向、*軍近代化のためのリソース等々について興味あることが書かれております。

解放軍の情報戦略の特徴として、平時時にはコンピュータ・ネットワークの防衛を最も重視しなければならぬ。また、情報戦は非常兵器と見なされ、先制武器として特徴づけられるとも書かれております。

情報戦の軍事活動は情報優越を確立し、解放軍の情報システムを保護し、敵の情報システムから情報を収集し、敵の情報システムを破壊し、敵の能力を弱めることにあるとして、頻繁に演習を行った結果、解放軍は情報技術と軍艦の情報統合化において大きな進歩を成し遂げたと述べています。

解放軍は現実的で、多くのシステムから構成されるシステムの運用、米国のネットワークセントリックな戦いに類似した構想を重視することによって、「情報化された」条件で作戦することを目指すとしております。これは統一された行動ができる統合化されたシステムの中に地理的に分散された部隊と能力をリンクさせることが必要であり、それを可能にしたという。これをドクトリンとして定め、二〇〇九年一月から解放軍全体に渡って標準になっているという。

また、「情報化された」作戦環境では電子戦が重要であり、戦争の結果を決定することへの鍵であり、重要な戦力の要素と見られているようです。

改革をおし進める解放軍の一端を紹介しましたが、陸自通信も信友会も今後更なる飛躍発展しますよう心から願っております。

信友会機関紙「信友」

創立五十周年に寄せて

通信学校長 陸将補 成田 千春



信友会の創立五十周年をお慶び申し上げますとともに、信友会会員の皆様には常日頃から通信学校並びに久里浜駐屯地に対し温かいご指導ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年八月より通信学校長として勤務しています。通信学校での勤務は二十五年ぶり二回目の勤務となりますが、この間に自衛隊の運用は従来の陸・海・空各自衛隊を基本とする運用から統合運用を基本とする運用となり統合通信の重要性がますます増大するとともに、ICTの急速な進歩に伴い通信科を取り巻く世界は急速に発展し、今や通信科職種は従来の通信ネットワークのみならず、システム、サイバーの主要な分野を担当しており、自衛隊の運用の重要な基盤を支えています。

また、ネットワークとシステム、基地通信(固定通信)と野外交信(移動通信)は総合一体化して運用されるようになり、通信科通信と部隊通信、通信職種とシステム職域等、従来の職域区分の垣根を超えて、また今までの基地・野外交信(固定・移動)、信務・電話・搬送・無線の特技を総合一体化しなければ真のユーザーサポートができない時代になっています。

さらには、陸上自衛隊の情報通信基盤、特に陸上最高司令部(陸幕)から方面総監部、方面総監部から師団・旅団司令部の情報通信基盤は統合情報通信基盤に依存しており、陸・海・空自衛隊システム通信部隊の維持管理能力の均一な練度の維持・向上が必要であり、また、近年のソフトウェア、COTS主体の装備品の導入等により、維持整備会社の二十四時間支援なくして、維持管理部隊のみでは情報通信基盤が維持できない状況となっています。

このような時代において、通信科の人材育成を担当する通信学校の果たすべき役割はたいへん大きなものがあると思います。通信学校の基本任務である「通信科に必

要な知識及び技能を習得させるための教育訓練を行うこと」とは言うまでもなく、システム、サイバーに関する教育訓練の主要な分野を担当するとともに、通信科通信と部隊通信、陸自通信と統合通信の均一な練度の維持・向上のために通信学校職員一同努力して行きたいと思っております。

如何に時代が変化しても、如何に技術が進歩しても、我々通信科の役割は作戦・戦闘を支援することであり、ユーザーサポートを第一義とすることは変わりなく、「作戦の全局面にわたり通信を確保し、指揮・統制の命脈として情報の優越及び戦闘力の総合発揮のための基盤を形成する」との通信科の使命を果たすため、ICT時代にふさわしい正しい人材の育成に努力していきたいと思っております。

信友会会員の皆様におかれましては、時には辛口で、また、時には温かい励ましの言葉で、今後ともご指導を賜りますことをお願い申し上げます。



成田学校長着任式

先輩からの教え

通信団長 陸将補 西川 公康



信友会の創立五十周年を心からお慶び申し上げますとともに、通信団に對します暖かいご指導・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

これまで歴代の団長をはじめ数多くの諸先輩方が築かれた輝かしい歴史と伝統を誇る通信団の団長として勤務することができ、十数年ぶりに通信科部隊に勤務する私にとりましては大変光栄であるとともに、その重責に身の引き締まる思いであります。

菊池信友会長をはじめ会員の皆様には、引き続き我々に対しましてご支援並びにご教導をよろしくお願い申し上げます。

さて、先日#九十三BOCの学生に訓話をする機会を与えられ、その訓話内容を考えながら、ふと自分の初級幹部時代を振り返ってみました。私の初めての勤務は、西部方面通信群で当時第一〇三通信運用大隊有線信務中隊に配置になりました。BOCを卒業して約一カ月後に方面總監検閲に参加することとなりましたが、BOCを出たばかりの私は当然のことながら方面通信群の行動についてイメージもなく、また大隊の警備隊長という職で具体的にどのようにならなければならないか戸惑いと不安で一杯でありました。その時、大隊のある先輩幹部の方から「お前はどうかせ役に立たないのだから、せめて検閲間一度も寝ることなく起きていろ。」と言われました。

確かに当時の私は、大隊においてはいたことが出来ない新米幹部でしたが、そんな言われ方に少し反発する気持ちが出てきて、「よし、だったらずっと起きてやろう。」と若輩ながら心に誓いました。そして、本番の検閲がはじまり、通信群全隊員が不眠不休で任務にあたっている中、私も警備隊員たちとともに大隊の警備任務に就いていました。様々な状況が付与され対応していたのですが、検閲も三日が過ぎ四日目に差し掛かった頃、一睡もしていなかった私の頭の中が朦朧として何も考えることが出来ない状態になってしまいました。自分としては意地でも起きてやると思っていたのも隊長としての指揮もままならぬ状態に、隊員の一人から少し仮眠を執るよう言われ、悔しい気持ちで仮眠をとりました。

検閲も無事終わり、部隊が駐屯地に帰隊し整備も一段落して、しばらくたった頃、「ずっと起きとけ。」と言った先輩幹部は何故私にあんなことを言ったのだらうと、ふと何気なく考えていました。もしかしら「過酷で長期にわたる作戦で、確かに任務遂行のためには不眠不休でやらなければならないことがあり、それができるよう日頃から鍛錬しておかなければならないが、もし指揮官が適切な状況判断と指揮が出来なくなってしまうと部隊・隊員を大変危険な状態に仕えてしまう。また、隊員に對しても同じで、長期にわたる任務が遂行できるような訓練するとともに、幹部は隊力運用をしっかりと考えるおかなければならない。」ということ暗に私に体得させたかったのではないかと勝手に思った次第です。その先輩幹部の方からあの時の発言の真意を結局聞くことはできませんでした。今ではその幹部の方に感謝しています。あの時の経験が今でも私の中では一つの大きな教えとなり、部隊・隊員の能力、言い換えれば限界を至当に見極めて指揮運用するとともに、そこから更なる能力向上のために錬成していくことが重要であると思った次第です。その他にも初級幹部時代に様々な失敗を繰り返しながらも、当時の中隊長や先輩幹部、そして陸曹達から指導あるいは助言を受け、今日の私があるのだと今も思っており、本当に感謝しています。



第301映像写真中隊撮影支援

現在、私は通信団の全隊員に對して「絆と挑戦」を要望し、常にユウザーに思いを致して「何時、如何なる任務もあらゆる手段をもって必ず完遂する強靱な通信団」を目標に団の育成に邁進しています。そのためにも私が初級幹部時代に受けた指導と同じように、この先からの将来ある隊員達を鍛え教導して「強靱な隊員・部隊」を育成し、そして防衛省・自衛隊のシステム・通信を更に充実・発展に寄与していくことが私の一つの使命ではないかと考えています。そのことが諸先輩方から受け継いだ通信科魂を伝承していくこととなると強く思っている次第です。

五十年に一度の変革の時

今なすべきこと

通信電子課長 一等陸佐 秋山 賢司



信友会の皆様には、常日頃からご指導、ご支援を賜り、この場を借りて感謝を申し上げますとともに、信友会の創立五十周年に当たり、これまでの諸先輩のご努力に敬意と尊敬を表しますとともに、心よりお祝いを申し上げます。

現在、陸上自衛隊の通信電子を取り巻く環境は急速かつ激的に変化しており、こんなことは五十年に一度のことかも知れません。

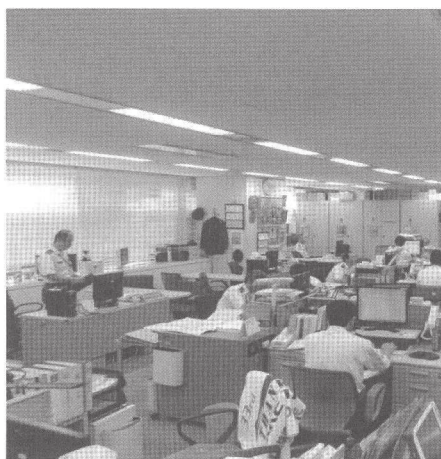
東日本大震災後の二ヶ年度にわたる補正予算で取得した野外通信システムの広帯域多目的無線機は、昨年度から逐次部隊に納入され、本年度の量産確認試験を経て、所要の改修等を実施しています。同じく野外通信システムのノード装置等の本機についても、平成二十六年以降、逐次に納入され、平成二十八年末には東部方面隊以西への配備が完了し、東日本大震災の対応時に問題となった、三代目にわたる通信システムは二世代となります。衛星幹線通信システムも引き続き整備され、野外通信システムの整備と相まって、野外における通信インフラは確実に強化されていきますが、今後、早急に検討の上、成果を出すべき課題も山積しています。南西地域を含む島嶼防衛等における水陸両用作戦時の通信システムやネットワークの在り方、南西地域における海上・航空自衛隊等とのリアルタイムな目標情報等の共有、陸目の

指揮統制システムのソフトウェア化と野外通信システム搭載によるデータ共有、統合・日米共同強化に向けた基盤整備、政府主導による各省庁の情報システム刷新への防衛省・自衛隊としての一体的な対応等が挙げられます。また、今年度末には、サイバー防護隊が新編され、防衛省・自衛隊のネットワークの監視と事案発生時の対処を二十四時間体制で実施するとともに、サイバー攻撃等に関する脅威情報の収集と調査研究を一元化に行う態勢が整備されますが、陸上自衛隊としてもサイバー攻撃対処に関する運用・体制の強化、中長期的な人材育成等について早急に検討が必要です。

一方で、引き続き厳しい国家の財政事情を受けて、装備品のまとめ買い、民生品の活用や装備品の仕様見直し等による経費削減の追求、装備品のライフサイクルを通じ一元的なプロジェクト管理を実施するための中長期的施策の強化等、装備品等取得の効率化にも継続的に取り組んで行かねばなりません。

中国の挑発的行動が活発化し、南西地域における対応が急務であり、かつ、サイバー空間や宇宙空間へと対応の領域が広がっている今、我々としても、定期的に重視すべき分野と我慢すべき分野、中長期的に投資すべき分野と機能統合や整理縮小を図るべき分野等、将来の方向性を議論の上、限られた資源をもって様々な課題に對し、如何に効率的かつ実効的に対応していくかが、これまでにない重要性になってきており、我々の英知を結果としていかねばなりません。

信友会の皆様には、引き続きご支援ご協力をお願い致しますとともに、ご助言やご意見を賜りたいと思います。最後に重ねて創立五十周年のお祝いを申し上げます。



通信電子課執務室

運用の時代における 装備品の戦力化

補給統制本部通信電子部長
一等陸佐 菅野 俊夫



信友会の皆様には、補給統制本部通信電子部に對して常日頃からご支援・ご協力を賜り、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

平成二十五年度は、現有の通信システム及び各種機能別無線機の後継として野外通信システム(以下、「野通」)の導入が本格化しています。一般部隊が使用する広帯域多目的無線機(野通の構成品の一つ。以下、「広多無」)は、平成二十四年度末から平成二十五年度にかけて十二式が先行的に導入され、野通自体も平成二十四年度調達により平成二十六年度末から平成二十八年度末にかけて十五式が導入されます。

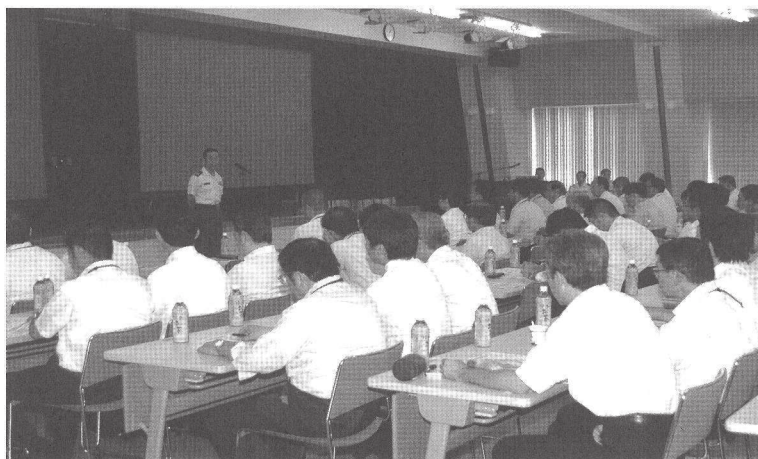
今回の短期集中調達により、野外通信装備の更新・近代化が進展し、三世代に渡る新旧装備の混在による制約の解消、データ通信能力の向上という悲願がようやく達成されます。各種戦闘指揮統制システムを始めとして、多くの装備品がシステム化され、通信ネットワークを介して相互に接続・連携して統合運用される時代となり、基地・野外・衛星通信網の総合的な充実・強化の実現に一步近づいたことを実感しています。

その一方で、量産初号機を一般部隊に多数導入することには弊害もあります。初期障害等への対応が難しくなる他、教育訓練・補給整備等の基盤を適時に整備しなければ、部隊の戦力発揮・任務遂行にも影響を与える恐れがあります。実際、広多無の導入に当たっては、供試品を用いた集合教育の実施「通校」、特例としての既存野外無線機充足の継続「陸幕」、「広多無サポートセンター」による障害等問い合わせ窓口の一本化「補統」等の処置対策を講じ、関係所掌が連携して導入部隊における円滑かつ早期の戦力化支援に取り組んでいます。

さて、蓋然性の高い脅威が存在する運用の時代においては、『今に即応し、将来に備える。』ことが要求されています。従って、新規装備品の早期戦力化は喫緊の課題

であり、導入部隊の戦力発揮に間隙を生ずることは許されません。更に、運用基盤の一翼を担う通信装備が、今後とも短期集中的に導入され、かつ、より短い周期で改善・更新されていくであろうことを念頭に、装備のライフサイクル(生涯過程)を通じた戦力化・運用支援を行う一元的な管理・支援体制の確立・強化が必須となります。

また、部隊の練成負担を軽減し即戦力化を図る意味からも、既存の装備品の取り扱い操作、運用実績、補給整備上の知識・経験等を継承し、再利用することは極めて有意義です。将来の戦いや技術革新に対応した変化・変革の重要性は十分理解した上で、部隊・隊員が使用するという原点に立ち、基本となる機能・性能、形状・寸法・強度・取り扱い操作要領等、「変えるべきではないもの」と「変えなければならぬもの」について峻別し、実運用への適合性を高めるための努力が必要と考えます。環境の変化が激しく、複雑化する時代において、本質の理解、不易と流行の見極めの難しさを痛感しています。



部長挨拶(陸上通信電子懇話会)

自信とプライドをもって 国民のために行動する 強靱な北部方面通信群

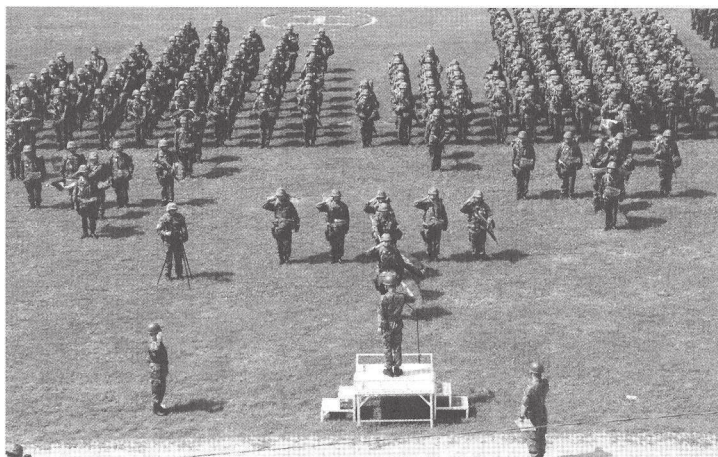
北部方面通信群長
一等陸佐 川村 浩和



信友会創立五十周年、おめでとうございます。北通群一同、心よりお祝い申し上げますとともに益々のご盛會を祈念しております。

さて、私は八月二十二日付で群長に上りましたが、伝統ある北通群の指揮官として勤務できることは光栄の至りであるとともに、その重責に身の引き締まる思いを感じております。群は、「自信とプライドをもって国民のために行動する強靱な北部方面通信群」を目指すべき姿として掲げ、「チームワーク」と思いやりを胸に日々隊務・訓練に動しっております。

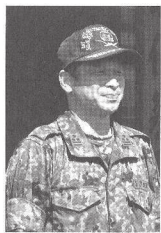
群は、今年七月に前群長の指揮の下、方面総監訓練検閲を受閲しました。現有装備の最大運用・最大能力発揮を目標に掲げ、検閲に向けて訓練を積み重ねてきました。また、初めての試みとして四月から基地隊員三十六名を野外部隊に配置し訓練しました。検閲ではその成果を遺憾なく発揮し、群一丸となって任務を遂行し、「良好」の評価をいただきました。また、北方では、方面隊職種協同訓練と称して、二十三年度から五カ年の中期構想に基づき実施しています。通信科職種も職種協同訓練(通信)として群及び各師旅団通信科部隊、方面直轄部隊が参加し、方面隊全通信部隊の通信構成・運営能力の向上を目的に毎年実施しています。今年も、各部隊と連携して、各通信組織との接続、野外におけるシステム回線・TV会議システムの構築、各師旅団に新規導入された衛星通信器材の戦力化を主要演習項目に実施し、土砂降りの雨をものともせず、群及び方面隊内十六コ部隊の通信構築・運営能力を向上することができました。また、今年には職種協同訓練の一環として、初の「方面隊システム競技会」を実施するとともに、十二月には今年最大のイベントであった日米共同方面隊指揮所演習(YS65)においても所望の成果を得ることができました。今後、群は益々精進して粉骨砕身で任務を完遂する所存です。北部方面通信群の更なる進化を期待して下さい。



方面総監訓練検閲受閲(隊容検査)

陸自唯一の電子戦専門部隊

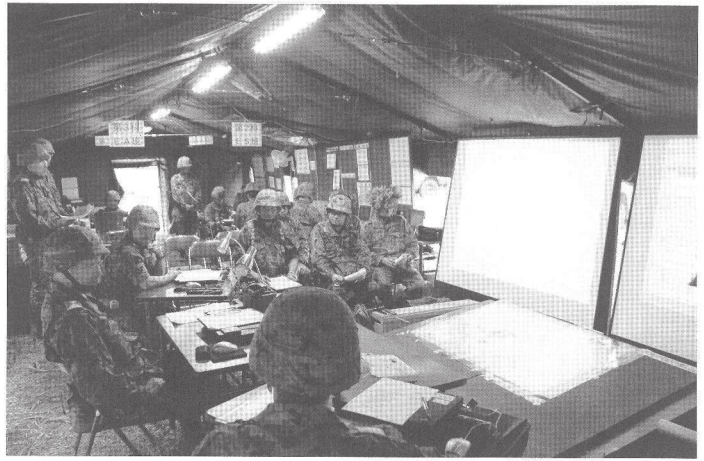
第一電子隊長 一等陸佐 田川 信好



機関紙「信友」の五十周年記念特集号の発行を心よりお祝い申し上げます。五十年にわたる信友会の活動、ご功績、電子隊に対するご支援に對して、電子隊員を代表して深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

第一電子隊が昭和五十六年に東千歳に移駐してからの以前、久里浜にあった通信標定隊の時代から五十年間、ずっと「信友」とともに歩ませていただきました。本当にありがとうございます。

通信大隊と比しても大きくはない第一電子隊ですが、その活動は東日本大震災への災害派遣等、多様な任務へ



隊CPX (YS準備訓練)

節目に思う

東北方面通信群長
一等陸佐 奈良岡 信一



信友会創立五十周年、誠におめでとうございます。通信科職種の現職部隊長として、心からお祝い申し上げます。信友会は、通信科職種として陸上自衛隊に在籍した幹部自衛官等OB相互の親睦を図ることを主たる目的として創立されましたが、年に一度、東京で実施される現職自衛官との懇親会においては、私自身、平成十三年から参加させて頂き、諸先輩方の暖かいご助言等を頂いて参りました。この場をお借りしまして、感謝申し上げます。

さて、折角の機会ですので、我が部隊の現況等をご紹介致します。東北方面通信群は、昭和三十五年一月十四日に東北方面通信隊として産声を上げ、昭和四十三年三月一日に東北方面通信群となり平成二十二年三月には五十周年の節目を迎えました。この間、歴代隊長及び群長はじめ諸先輩方の弛まぬ努力により精強な部隊へと成長し、現在も東北方面隊の指揮の命脈を確保する重責を担い、日々爾々と任務遂行しております。近年では、情報通信技術の急速な発展により、これまでの音声通信に

えてデータ通信の必要が多くなり、システム通信としてその役割を果たすことが必須となってきました。

特に、平成二十三年三月に発生しました東日本大震災においては、災統合任務部隊として全国から派遣された陸海空各部隊の活動や関係自治体等との連絡・調整のためのシステム通信を確保するため、三世代(79式、DICS、DICS改)に及ぶ通信器材を接続するなど、これまでに経験したことのないシステム通信組織を構成し任務を達成することができました。これも一重に、信友会をはじめ関係通信事業者等の皆様のご助言や協力のおかげと心から感謝申し上げます。同時に、我々としても日進月歩の情報通信技術に乗り遅れることなく日々進化していかなければならないと肝に銘じております。また、平成二十五年六月には、四年ぶりとなる方面総監訓練検閲を受閲し、通信群の能力を評価して頂いたところであり、これまで培った実力に更に磨きをかけ、その役割を十二分に発揮できるよう、皆様のご助言等に甘えることなく、自らの強い意志をもって着実に前進して参りたいと思います。

最後に、改めて信友会創立五十周年に対し、心からお祝い申し上げますとともに、今後益々のご発展をご祈念申し上げます。

東部方面通信群の近況

東部方面通信群長
一等陸佐 末田 毅



信友会創立五十周年誠に
おめでとうございます。貴
会の益々の御盛会を祈念申
上げます。また、常日頃
から心温まるご指導・ご鞭
撻を賜り感謝申し上げます。

東部方面通信群も平成二十五年三月に群創隊三十周年を迎え、諸先輩方が築いてこられた輝かしい伝統を継承しつつ、日々進化しながら隊務を運営しています。

さて、小職が第十七代東部方面通信群長に着任して、早くも一年近くが経とうとしていますが、今年度の主要なシステム通信任務完遂状況、二十七年度末に導入予定の野外通信システム受入準備状況について、その一端を紹介したいと思います。

七月一日〜五日にかけて平成二十五年年度自衛隊統合防



25年度自衛隊統合防災演習



方面総監訓練検閲受閲(隊容検査)

の対応、道内のみならず全国他方面でのYSへの参加、西方情報隊等との連携訓練等、活動内容や規模が全国レベルに広がってきています。さらには、システム化や通信電子技術の急速な進歩への追従、サイバー戦との連携など電子戦部隊を取り囲む環境の大きな変化にしっかりと追従を開始しています。

日本を取り囲む戦略環境の変化、厳しい財政環境の中、在北海道の部隊は大きく統廃合し再編成を余儀なくされているところですが、しかし、第一電子隊は総合的に電子戦を遂行できる日本唯一無二の部隊として厳然と存続しています。さらに、次期新装備である新電子戦システムの開発も、厳しい予算環境の中、重要アイテムとして勝ち残って進んでおり、陸上自衛隊における電子戦部隊に対する重要性は引き続き中長期にわたって認識されています。

陸上自衛隊の中で電子戦機能における唯一の専門部隊としての誇りをもって勤務、訓練に邁進していきます。引き続き、信友会の皆様のいまままで同様のご支援、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

災演習(25JXR)に参加し、南海トラフ巨大地震対処計画を検証するとともに、総監部内に設置されるシステム通信を一元的に管理運営するネットワークオペレーター・ジョイントセンター(NOC)との連携要領及び方面直轄各部隊等との協同連携要領を演練し、より実効性ある計画に修正でき、システム通信確保能力の向上を図ることができました。

十月二十七日に実施された自衛隊記念日記念行事観閲式においては、情報通信技術(ICT)を活用したシステム通信の確保、放送、映像・写真の撮影・処理等を実施してシステム通信任務を完遂し、国家的行事である観閲式の成功に寄与することができました。

また、将来を見据えた準備として、二十七年度末に予定されている野外通信システム導入に伴う改編準備を促進するためにプロジェクトチームを立ち上げ、各方面通信群及び通信学校等と密接に連携して、情報共有を図り、先行的に改編準備を進めているところです。

東部方面通信群は、今年度に約百名近くの新隊員を迎え、一〇〇名を超える勢力となりました。引き続き、即応態勢を堅持しつつ、ICT活用を促進し、方面隊の指揮の命脈であるシステム通信確保に日々進化していきますので、今後とも東部方面通信群に対して、信友会の皆様のご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

中央野外通信群の 最近の取り組み

中央野外通信群長
一等陸佐 上西 慶明



「信友会」創立五十周年
おめでとうございます。ま
た、会員の皆様におかれま
しては、益々ご健勝のこと
とお慶び申し上げます。

今回、投稿する機会を頂
きましたので、中央野外通信群(中野群)の最近の取
組みをご紹介します。

中野群の任務は、中央通信組織の野外通信幹線等の構
成等及び自衛隊最高司令部のための指揮所合同通信所を
開設運営することにあります。そのため、全国唯一の重
搬送、軽搬送及び衛星可搬局等を保有しておりますが、
老朽化及び陳腐化が顕著な器材が多く、早期更新を必要
としています。

多様化する中野群の役割を果たすべく、近々予定を迎
える重搬送の損耗時期に合わせて、方面電交、模写伝送
装置等の機能性能の向上が図れるように任務遂行基盤の
見直し検討を行い、一案を得るに至りました。

検討結果については、現有装備等で実現可能な機能は、
ユーザーにシステム通信サービスを提供できるように群



衛星可搬局のC130輸送機搭載訓練

集中訓練等で技術的検証を行った上で、上級部隊に意見
提出する予定です。

また、二十三年度末に導入された衛星可搬局の早期戦
力化については、C130輸送機での空輸性及び輸送艇
での海上輸送性の検証を行い、初動時のシステム通信サ
ービスをどこにでも迅速に展開できるよう演練し、導入後
の運用を確立するとともに、隊員の意識改革を図ってま
いりました。

さらに、検証結果を統合運用に反映できるよう、J6
と連携し、中野群のメニュー表としてマニュアル化を目
指しているところです。

今後中野群は、自衛隊最高司令部を支援し、全国展
開する唯一の野外部隊であるとの誇りと使命を堅持し、
創意工夫と熱意をもって「任務必達」する所存でありま
すので、引き続き会員の方々の心温まるご支援・ご指導
の程よろしくお願い申し上げます。

中央基地システム通信隊の現状

中央基地システム通信隊
一等陸佐 中内 裕

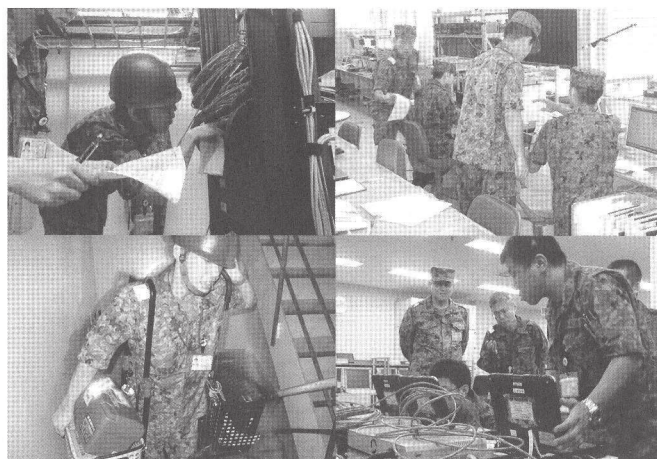


信友会創立五十周年、誠
におめでとうございます。

現在、防衛省・自衛隊の
基地システム・通信網は大
きな変換点を迎えており、
「市ヶ谷」札幌間及び関東
環状ルートの地上マイクロ回線の高速・大容量化、「防
衛省自動即時電話網」における中継・構内交換機のIP化、
「陸自業務システム基盤の整備」等の換装事業が進めら
れております。

当隊は、「陸上自衛隊中央通信所」として、防衛省・
自衛隊の基地システム・通信網の監視・統制業務を遂行
しており、隊長要望事項を「垣根をはずし、やるべきこ
とをみんなやろう」とし、「常統不断」のシステム・通
信の確保」及び「換装事業の完遂」を主軸に置き、隊務
を遂行しております。

昨今、首都直下地震、南海トラフ巨大地震、またこれ
らに連動した富士山噴火等の大規模震災への対応につい
て、国・省としての検討が進められており、当隊として
も震災が生じた際如何にして「常統不断」のシステム・
通信を確保」するのか、その上での問題点及び処置・対
策を案出し、「如何に事業化していくか」の観点で、統
幕・陸幕・各方面隊、自衛隊指揮通信システム隊及び海・
空通信部隊と連携・調整しつつ業務を進めております。



通信競技会

通信監査も半世紀

通信保全監査隊長
一等陸佐 浜下 十四郎



信友会の皆様にはいつも
お世話になっております。
この度は、信友会創立五十
周年誠におめでとうございます。

さて、二十世紀後半はエ
レクトロニクスの時代、そして二十一世紀前半はICT
の時代と軍用通信を取り巻く環境は進歩と激変を繰り返

このような状況において、「変化に対応する意識」及
び「全国のシステム・通信に責任を有する中央通信所の
一員としての意識」を保持させるとともに、中央通信所
訓練及び通信競技会を実施して、いついかなる場合にお
いても十分に能力を発揮できる部隊の育成に努めている
所です。

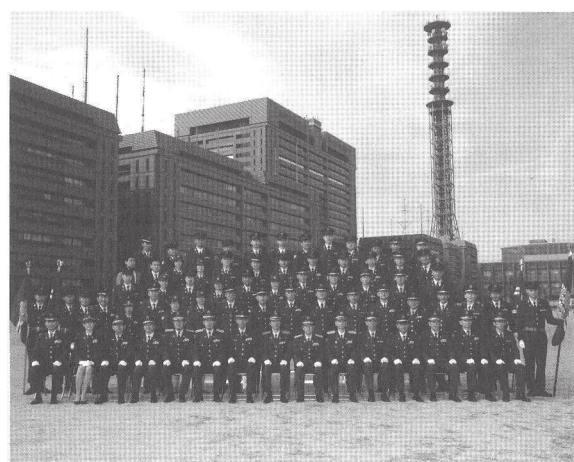
信友会員の皆様におかれましては、今後も引き続きご
支援・ご協力頂きますようお願い申し上げます。

して来ましたが、通信保全監査隊の主要任務たる通信保
全、通信監査も同様です。三十年近く前に創設された当
時の手法に加え、暗号の電子化、コンピュータ化は言う
に及ばず、インターネットの普及とインターネット利用
の増大に伴い、これらに対する監査にも万全を期してい
ます。また、大規模システムに対するシステム監査も定
着し、長期間を掛けてあちらこちらの部隊を監査して回っ
ていきます。このように、伝統的な手法から未来対応の新
手法に至る、非常に高度で広範にわたる保全と監査を日々
実行しています。

また、任務の特性上、閉塞感のある勤務環境は如何と
もしがたいため、持統走を始め、フットサルやバレーボ
ールなども取り入れて、気分転換と体力向上に励んでいま
す。

加えて、通信保全監査隊は前身の通信監査隊から数え
て五十五年を迎えようとしており、記念誌の編纂を企
画中です。二十年史発行以来三十五年ぶりとなる予定で
す。古くはミニ東京タワーのような通信鉄塔北側の三号
館、四号館と呼ばれた隊舎に陣取った時代から、今日の
B庁舎の日々までをまとめて行こうと思っております。
信友会の皆様に往時の状況をお伺いすることもあろうか
と思っておりますので、その際はよろしくお願い致します。

最後に、通信保全監査隊は常に最高の技術、技能と豊
かな発想、思考で唯一の専門部隊の任務を全うしようと
思っていますので、引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろし
くお願い申し上げます。



創立記念日

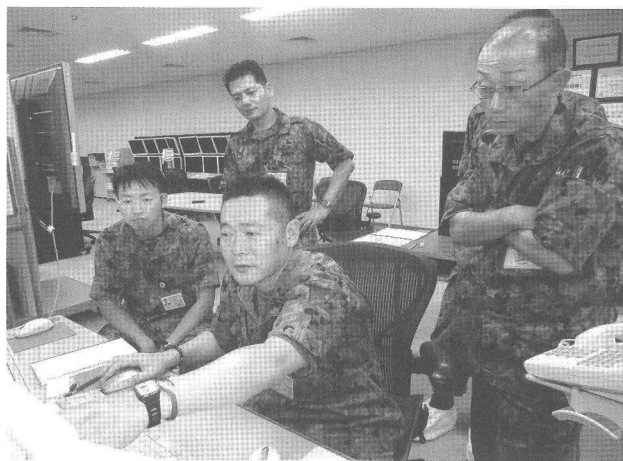
世界一の技術力への飽くなき挑戦

システム防護隊長

一等陸佐 島末 真



「信友会五十周年」誠に
おめでとうございます。シ
ステム防護隊員一同心か
らのお祝いと諸先輩方への
現在までの御苦労に対する
感謝と敬意を表する次第で
あります。昨今、陸上自衛隊においてもIT化が着実に
進展し各種システムを活用した業務が常態となり、また
作戦行動においても各種システム等に大きく依存する時
代に突入しました。まさにネットワーク・セントリック・
オペレーションの時代に突入したといえると思います。
しかしながらシステムに依存すればするほど敵のサイバー
攻撃等に対して脆弱になるのも事実であります。また、
近年サイバー空間における関係機関等への標的型攻撃
等のサイバー攻撃は継続的かつ執拗に実施されるのが常
態となっております。すなわちサイバー空間における安
全の確保は、もはや国家としての喫緊の課題となりつつ
あります。このような中でシステム防護隊は、二十四時
間三百六十五日一日たりとも休むことなく陸上自衛隊の
情報システムをサイバー攻撃等から防護しつつ、各方面



サイバー攻撃等対処訓練

新たな歴史への歩み

中部方面通信群長

一等陸佐 丹間 章人



信友会の皆様、創立五十
周年誠におめでとうございます。また、陸上自衛隊シ
ステム通信発展のため、平
素から多大なご支援・ご協
力を賜り、心から御礼申し
上げます。信友会の歴史は陸上自衛隊のシステム通信発
展の歴史でもあり、今後の皆様の更なるご発展を心から
祈念致します。

中部方面通信群は、昨年度創隊五十周年記念の節目を
迎え、新たな半世紀の歴史を歩み始めました。平成二十
三年度末に方面隊電子交換システム(改)導入に伴い改
編され、また民生衛星通信器材の導入、本年度は陸自指
揮システムが換装される等、システム通信装備の戦力化
へ向け日夜練成に励んでおります。このような中、中部
方面隊は南海トラフ巨大地震に対し計画の実行性向上を
図るべく計画の見直しを実施中であり、中部方面通信群
も総監部防衛部通信班と連携しつつ、実行性向上のため
の検討・検証を重ねて参りました。多大な被害をもたら
した東日本大震災を上回る被害が想定される中、中部方
面通信群も即時救援活動や生活支援等の部隊活動のために、
必要不可欠なシステム通信組織を構成・維持・運営する
ため真剣に取り組んでいます。中部方面隊区は、甚大な
被害が予測される四国地区及び紀伊半島は急峻な地形で
あるため、システム通信組織構成上、中継所・ノード適
地に制約があり、これらを克服するため、衛星通信器材
を活用した基地・野外通信器材との接続、NTT西日本
及びNEXCO西日本との協定締結や協同訓練等を逐次
進めてきております。大規模震災時の官民連携の重要性

隊等と継続的に実地的な訓練を実施して、より実効的な
サイバー攻撃等対処について、その実力を着実に積み上
げてまいりました。また、平成二十五年度末に予定され
ているサイバー防護隊(仮称)編制を前に防衛省全体と
してのサイバー攻撃等対処要領等を具体的に検討してい
るところであります。今後、サイバー攻撃等防護は現代
戦であるネットワーク・セントリック・オペレーション
における主要な分野になることから部隊として更なる向
上を図り、世界一のシステム防護隊を目標に日々精進し
ていく所存であります。最後にシステム防護隊は「世界
一の技術力への飽くなき挑戦」を合言葉に専心努力する
所存でありますので、信友会の皆様におかれましては、
引き続き一層の御支援御鞭撻を賜りますようお願い申し
上げます。

南西防衛通信の課題と西部方面通信群の取組み

西部方面通信群長

一等陸佐 濱崎 芳夫



信友会創立五十周年、誠
におめでとうございます。
我が西部方面通信群は通信
科OBの皆様にも支えられ
ながら、国防の第一線であ
る南西地域の通信システム
確保の任務に隊員一同、全力で取り組んでおります。本



NTT西日本との協同訓練

稿では南西防衛通信の課題と西通群の取組みをご紹介します。

課題の一つは「各離島エリアの接続」です。運用上、
九州本土(奄美・沖縄エリア)先島エリアの島嶼間のリ
ンクが必要です。が、これからの島嶼間は数百〜百数十
km以上離隔しており通信上の制約となります。

「システム装備の通信基盤」の課題もあります。各戦
闘システムが必要とするデータ通信ニーズの他、映像に
よる情報共有やTV会議等の運用ニーズを満たす通信基
盤の構築が必要です。

また「統・連合通信」への取組みも不可欠です。水陸
両用作戦では他自衛隊との統合通信が前提です。米軍
と相互運用性の更なる向上も重要となります。

西通群はこれからの課題に取り組んでいます。方面隊
実働演習(鎮西演習)等の場で海空自衛隊通信部隊との
協同訓練を重ね、島嶼エリア間の接続、統合通信能力の
強化を図っています。

また、今年度は米国における統合訓練(ドーン・ブリッ
ツ13)に群の要員が参加しさまざまな教訓を得ること
ができました。民生品を活用した検証も実施して通信確
保のための様々な可能性の検証にも取り組んでいます。
また平成二十四年度からは海兵隊のIII MEFとの間で
「日米通信会議(JUSC-Japan U.S. Signal [Tails])」を
実施し現場レベルでのインターオペラビリティの向上を
図っています。

以上、南西防衛通信の課題と西通群の取組みについて
簡単に紹介させていただきました。今後も通信群は強靱
な部隊の創造に向け、そして、西通群の任務遂行の如何
が、直接、方面隊の任務遂行を左右するとの認識のもと、
隊員一同、全力で任務を果たしていく所存です。今後と
も信友会の皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上
げます。



第1回演習

第四十九回総会・ 合同歓送迎会を実施

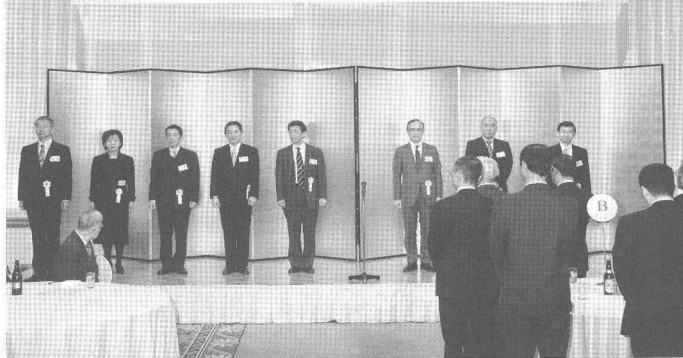
第四十九回信友会総会及び通信科・信友会合同歓送迎会は、平成二十五年二月二十四日(日)に「第一ホテル東京(新橋)」において盛大に行われました。最初に陸幕通信電子課長の講話に始まり、次いで総会では、平成二十四年度事業報告及び平成二十五年度事業計画等が審議了承されました。

その後、信友会・現役合同の歓送迎会が行われました。約一時間の会は、信友会員・現役隊員・新入会員・援護企業等の皆様、合わせて約二百六十名の参加を得て、会員旧交の場、現役隊員との交流の場として大いに盛り上がり、無事に終了しました。

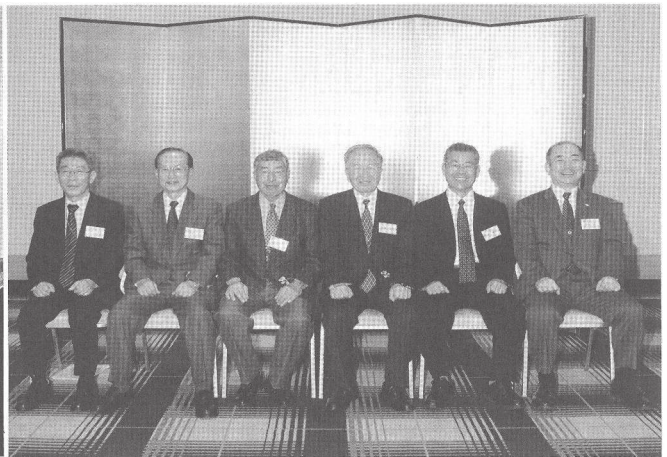


合同歓送迎会(乾杯)

第49回 通信科 信友会 合同歓送迎会



合同歓送迎会(新入会員紹介)



古希のお祝い 会員と会長、副会長

陸上自衛隊通信電子の現況

陸幕通信電子課

一 はじめに

わが国周辺の安全保障環境は一層厳しさを増しており、平成二十五年一月二十五日、政府として「平成二十三年度以降に係る防衛計画の大綱(二二大綱)」を見直し、平成二十五年内に結論を得る旨閣議決定され、防衛省は、「防衛力の在り方検討のための委員会」を設置し、特に統合運用の観点を中心とした議論を行ってまいりました。

防衛力の在り方検討に関する中間報告※1では、安全保障環境の一層の深刻化と情報通信・ネットワーク技術の高度化を踏まえれば、統合運用の重要性は益々高まるものと考えられ、統合運用の実効性の更なる向上のためには、その前提となる指揮・統制・通信の基盤を強化するため、各自衛隊間の通信を充実するための装備品の整備や通信基盤が脆弱な島嶼部の通信機能の確保について検討する旨及びサイバー空間の防衛には、極めて高度で専門的な知識・技術や特別な器材が不可欠であり、これらの整備を着実に進める旨が方向性として打ち出されました。

平成二十五年には、日々高度化・複雑化するサイバー攻撃の脅威に適切に対応するため、「サイバー防衛隊(仮称)」を新設するなど体制の充実・強化を図るほか、ネットワーク監視態勢の強化事業やサイバー演習環境構築技術に関する研究を始めるなど、運用基盤の充実・強化にも取り組むこととしています。

また、高性能化・複雑化している防衛装備品を安定的に整備していくためには、効果的・効率的な取得に努めつつ、わが国の防衛生産・技術基盤を維持・強化していくことが重要であり、今後防衛大綱の見直しに合わせ防衛生産・技術基盤の維持・強化のための戦略について検討していくこととしています。

※1 防衛省ホームページ(アドレス:http://www.mod.go.jp/j/approach/agenda/guideline/2013_chukan/)に掲載

二 主要通信電子器材等の整備

平成二十五年は、師団通信システム(改)(第十師団、師団等指揮システム(第七及び第十師団)、広域域多目的無線機(第十師団、第十二・十三・十四旅団等)、衛星幹線通信システム携帯局装置※2(各部隊)、対空戦指揮統制システム(第十五旅団)、火力戦指揮統制システム(第二師団)等が逐次部隊に納入されます。また、平成二十五年の主要な固定システム関連事業として、方面隊指揮システム(中部方面隊)の換装があります。

さらに、東日本大震災時に、各部隊の通信システムが新旧異種であることにより、円滑な通信に制約が生じたことも踏まえ、各種事態への対応において、自衛隊部隊等が迅速かつ的確に情報の伝達・共有を行えるよう、平成二十四年度補正予算において野外通信システムを十二式整備(集中調達)し、部隊等の通信機能の強化を図りました。

※2 別図「衛星幹線通信システム携帯局装置」参照

三 体制変換

(一) 陸自部隊の改編

平成二十五年において、第七及び第十師団を改編し、防衛装備体制を整備するとともに、第十一・十三・十四旅団を改編し、施設支援機能及び通信支援機能の強化を図ります。

(二) 陸自通信部隊の改編

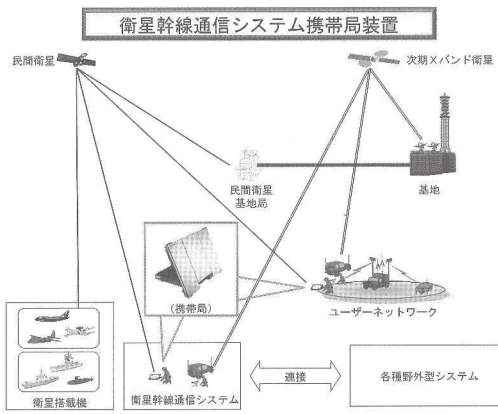
第七及び第十師団の改編に伴い、師団の通信支援機能を整備するとともに、第十一・十三・十四旅団の改編に伴い、旅団の通信支援機能を強化し、通信中隊から通信隊へ改編されます。

四 おわりに

防衛省においては、新たな防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画を平成二十五年末に策定するため各種検討を重ねてまいりました。さらにこれらの検討成果を踏まえ、わが国の防衛態勢の強化を図るため細部具体化検討を進めているところです。通信電子課としても、島嶼部を念頭においた統合の機能強化や衛星通信を含む高度な情報通信ネットワーク及び優れた情報通信技術を活用したより広範・機動的な情報通信態勢の構築等の検討について引き続き協力するとともに、陸自の野外ネットワークの核となる「野外通信システム」等の事業を推進し、陸自のC4ISR※3分野の充実発展に日々努力して参る所存ですので、信友会会員皆様のお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

※3 C4ISR: Command, Control, Communication, Computer, Intelligence, Surveillance and Reconnaissance(「指揮」「統制」「通信」「情報」「監視」「偵察」の総称)

別図



事務局だより

信友会は、平成二十五年でも会長・副会長の指導のもと、年間それぞれ五回の役員会と五十周年実行(準備)委員会を開催し、五十周年記念事業関連業務を中心に第四十九回総会・合同歓迎迎会業務及び会員の管理業務等を実施してきました。

(一) 五十周年記念事業関連業務の推進

五十周年実行委員会は、平成二十五年四月一日(月)に準備委員会から態勢移行して委員長(菊池会長)以下二十八名で発足し、四回の実行委員会を通して五十周年記念事業内容の深化・具体化を図ってきました。

(二) 地区懇親会の開催

昨年度の地区懇親会は、五十周年記念事業の一環として、平成二十五年四月七日(日)東北方面通信群創隊記念行事に併せて開催しました。この際、現役のご支援・ご協力を得て信友会行事を独自に計画し、会長挨拶、五十周年記念事業の概要説明、記念撮影を行う等、会長以下役員と東北地区会員並びに東京方面等各地から記念行事に参加された会員の皆様との相互理解・懇親を深めることができました。

(三) 信友会座談会の開催

信友会座談会は、第四十九回総会時に会員から座談会要望があったことから計画したもので、平成二十五年十一月五日(火)に市ヶ谷にて開催しました。(なお十一月五日は、信友会発足の記念すべき日であります。)

歴代の会長、副会長、事務局長及び総務筆頭幹事等、多くの皆様にご出席いただき、「信友会五十周年の回顧と今後の展望」をテーマにお話しいただきました。

なお座談会の内容につきましては、(四)項のDVDに収録しております。また座談会の様子(写真)は、本機関紙の第一面をご覧ください。

(四) 信友会の歩み(通信科の歴史)の作成

信友会の歩み(通信科の歴史)は、五十周年記念事業の一環として作成を計画し、現役の皆様の絶大なご支援・ご協力のもと、DVDに収録しました。会員の皆様には信友会の思い出等についてご投稿いただき大変有難うございました。また五年毎機関紙に掲載してありました「会員だより」は、今回のDVDの中に収録しております。「会員だより」は、平成二十六年一月末まで受け付けておりますので奮ってご投稿下さい。なお会員の皆様には、後日このDVDを発送する予定であります。暫くお待ちいただきたいと思います。

(五) 五十周年記念行事の開催

五十周年記念行事は、平成二十六年一月二十三日(日)

に「第一ホテル東京(新橋)」において開催する予定であります。当日の記念行事は時間を拡大し、①総会②記念式典(感謝状贈呈を含む)③記念講演会④合同歓迎迎会兼ねて祝賀懇談会を計画しております。会員皆様の多数のご参加を心からお待ち申し上げます。

二 第四十九回総会・合同歓迎迎会の開催

昨年度の第四十九回信友会総会及び通信科・信友会合同歓迎迎会は、平成二十五年二月二十四日(日)に「第一ホテル東京(新橋)」において開催し、会員・現役・援護企業合わせて約三百六十名の参加を得て盛会裡に終了しました。

三 信友会ホームページの維持

信友会ホームページを開設して約七年が経過致しました。今後とも記事の適時の掲載・更新に努めてまいりたいと考えておりますので、益々のご活用をお願い申し上げます。

四 通信等事務費納入のお願い

通信等事務費は、毎年の機関紙の発行、三年に一度の名簿の作成・発送等のため、隔年毎に二千元を徴収させていただいております。未納入の方は、納入いただきましたく宜しくお願い申し上げます。

五 信友会会員の紹介

信友会会員の紹介、平成二十五年年度の総会で互選された菊池伯氏が、行徳浩志氏の後を受けて平成二十五年四月一日より職を執っております。現在の役員は次のとおりです。(※印 新任)

〔会長〕 菊池伯

〔副会長〕 田中達治

〔五十周年実行委員会(専任)〕

長・今井恵治

松岡裕子・高橋宏彰

〔総務〕 長・本田徹

田辺利明・柳喜隆

赤木教・長田寿彦

〔機関紙〕 長・石井智

吉永春雄・白石人士

桐山正昭・相澤敦

〔名簿〕 長・武藤吉昭

児玉忠三郎・小倉良太

〔会計〕 長・新居久佳

宮崎礼二・山田隆義

〔監事〕 長・門野睦廣(総務から転任)

山根洋(機関紙から転任)

ホームページ: <http://shinyukai.fc2web.com>
E-Mail: shinyukai@tune.ocn.ne.jp

信友会新入会員名簿

(H24.12.02~H25.12.01)

氏名	現住所	最終所属	退職年月日
金井 泉 薺	千葉県	基礎情報隊	H22.04.13
池澤 寿人	福岡県	九州補給処	H23.06.18
松本 久 訓	神奈川県	通信学校	H24.11.10
新居 久佳	千葉県	通信団本部	H24.12.09
北村 誠	神奈川県	通信学校	H25.01.23
本多 久 訓	東京都	陸幹部学校	H25.01.24
山中 隆義	神奈川県	通信学校	H25.03.05
野山 寛	神奈川県	通信学校	H25.03.15
進藤 進	埼玉県	九州補給処	H25.04.01
丹羽 忠志	埼玉県	通信学校	H25.04.01
濱口 浩衛	東京都	通信団本部	H25.06.25
八木 宏文	東京都	補給本部	H25.07.12
松井 教安	埼玉県	通信団本部	H25.07.25
辻 勝文	神奈川県	西方後方隊	H25.08.01
相澤 敦	千葉県	研究本部	H25.08.17
小林 英彦	神奈川県	通信学校	H25.08.22
野馬 共一	宮城県	東北通信群	H25.08.26
内山 恵子	埼玉県	通信監隊	H25.09.06
池池 雅彦	千葉県	通信団本部	H25.10.14
小峰 誠治	東京都	補給統制本部	H25.11.12

平成25年度信友会会計報告

(H25.1.1~H25.12.31)

収 入	支 出
前 年 繰 越	3,988,784
経 身 金 費	210,000
通 信 等 事 務 費	230,000
利 子	185
第49回総会経費入金等	21,503
以下 余 白	50,000
計	4,450,472

以上のとおり報告します。平成25年12月31日

信友会会計幹事 鮫島 茂広

監査の結果、異ありません。平成25年12月31日

信友会 監事 門野 睦廣

山根 洋

平成25年叙勲おめでとうございます



瑞宝小綬章 安藤 正之 氏 元中央野外通信群長
瑞宝双光章 瓜山美智明 氏 元第101搬送通信大隊長
第20回危険業務従事者叙勲
瑞宝双光章 元田 伸充 氏 元東部方面通信群2等陸尉



瑞宝小綬章 澤頭 洋一 氏 元通信学校第1教育部長
第21回危険業務従事者叙勲
瑞宝双光章 金子 照男 氏 元東北方面通信群2等陸尉
長南 新一 氏 元補給統制本部1等陸尉

編集後記

本三十七号は、信友会創立五十周年を飾る記念特集号として編集しました。ようやく発行の運びとなりましたが、これもひとえに会員の皆様や現役隊員の皆様のご協力の賜物です。特に投稿して頂いた皆様には心から感謝申し上げます。自画自賛で恐縮ですが、記念特集号として、例年よりも格段に充実できました。信友会からは、現会長、元会長の牛山様、中里様から、現役四役(通信学校長、通信団長、陸軍通信電子課長、補給通信電子課長)は全員の方から寄稿していただきました。通信科部隊長は、例年であれば、新着任の通信群長だけをお願いしているのですが、今回は全員が通信群長、さらに第一電子隊長、中央基地システム通信隊長、通信保全監査隊長、システム防衛隊長の皆様にも初めてお願いしました。現役四役、各部隊長とも、教育訓練、各種業務等で忙しい中、快く引き受けて頂き、最新の情報を提供して頂きました。昨年、信友会が主催した東北地区懇親会は、五十周年記念事業の一環という位置づけで、第一面に掲載しました。

また、今回企業広告を第十面に掲載しましたが、八社の企業から賛同頂きました。ところで、初めての試みとして、第一面と第十面だけですが、カラーで印刷しました。例年よりも少しだけ華やかな感じをお楽しみ頂けると幸いです。また、「信友」は従来文章主体の構成でしたが、文字数を少なくして、写真を増やし、ビジュアル化に努めました。なお、「会員だより」は、今回は後日配布される「信友会の歩み」のDVDの中に掲載しますので、そちらをご覧ください。

(編集委員 石井、吉永、桐山、白石、相澤)